



▲帰還した伊達政宗公騎馬像

令和4年3月16日に発生した福島県沖を震源とする地震により、馬の足首部分に亀裂が入り傾倒するなどの被害を受け、7月から東京の工場修復作業を行っていた伊達政宗公騎馬像。破損箇所の修復に加え、内部をより堅固な構造に改良するなどの作業を行い、ついに3月21日、青葉山公園本丸広場に到着しました。3月31日には、およそ8カ月ぶりの帰還を祝い、帰還記念式典が開催されました。式典当日は、満開の桜が咲き誇る晴天の下、伊達武将隊が騎馬像前で演武を披露し、会場を盛り上

市政トピックス

おかえり！仙台のシンボル―伊達政宗公騎馬像帰還



佐藤厚志さん(中央)



松井裕樹選手(左)

第168回芥川賞を受賞した本市出身の佐藤厚志さんと、WBC(ワールド・ベースボール・クラシック)で14年ぶり3度目となる優勝に貢献した、東北楽天ゴールデンイーグルスの松井裕樹選手に「賛辞の楯」を贈呈しました。3月30日に佐藤さん、4月4日に松井選手への贈呈式が行われました。佐藤さんの受賞作「荒地の家」は、東日本大震災後の宮城県を舞台に、いまだ消えることのない喪失感を抱えながら生きる人々の、日常の暮らしを描いた作品です。郡市長は「熟慮された言葉で、

市政トピックス

佐藤厚志さんと松井裕樹選手に「賛辞の楯」を贈呈

静かに、リアルに表現されていて、私たち仙台市民に大変深い感銘を与えてくれるものでした」と話し、書店で働きながら執筆活動を続ける佐藤さんに、さらなる活躍を期待してエールを送りました。佐藤さんは、「震災のことが作品内に含まれており、地元の読者にどう受容されるか不安でしたが、皆さんに喜んでいただけて、とてもうれしく思っています」と受賞の感想を述べました。

WBC第1次ラウンドの韓国戦に登板し、無安打無失点の好投でチームの勝利に貢献した松井選手は、「身に余る賞をいただき光栄に思います。楽天イーグルスとしてまたこのような賞をいただけるように、チーム一丸となって優勝を目指して頑張っていきたい」と今後の抱負を語りました。郡市長は「チームの勝利に貢献された姿は、仙台市民にとって誇りでもあり、仙台市民にとって誇りでもあり、深い感動と勇気を与えてくれました」とその健闘をたたえました。

市政トピックス

子どもたちが考えた公園の活用を推進するアイデアを実現

市では、令和5年度を「観光再生元年」と位置付け、コロナ禍で大きな影響を受けた観光の再生に取り組むこととしています。そのキックオフイベントとして、観光地域づくりやその効果について考える「仙台観光交流フォーラム」を3月25日に仙台国際センターで開催しました。観光分野の専門家3人を迎えて、観光地域づくりの舵取り役を担うDMO(観光地域づくり法人)や、今後求められる観光振興戦略等についての講演とパネルディスカッションを行いました。観光関連事業者をはじめとする参加者は、「DMOと事業者が一体となった観光地域づくりが必要」「仙台の観光地としてのネームバリューを高めることで、東北の活性化にもつながる」といった専門家の話に、真剣に聞き入っていました。

市政トピックス

アフターコロナを見据えた観光交流フォーラムを開催

岡小学校の5年生が「総合的な学習の時間」の授業で考えた、公園の活用を推進するアイデアを、地域団体等の協力の下で実現したものです。

児童は、キッチンカーを活用したふれあいの場の創出、スタンブラー、ポッチャ、植物クイズのグループに分かれ、広報チラシの作成や事前準備に取り組み、当日は約60人の児童が運営に参加しました。また会場では、榴岡児童館子どもスタッフ会の児童も雑貨屋を出店。来場者は、工夫が凝らされたブースで、子どもたちと交流しながら、楽しいひとときを過ごしました。

参加した児童からは、「準備ではみんなの意見がまとまらず大変だったけど、たくさん人が来てくれるのを想像すると頑張れた」「来てくれた人と話すのは緊張したけど、楽しかった」といった声が聞かれました。



▲会場では、来場者の楽しそうな声が響きました

市政トピックス

市では、本年度から仙台市立南小泉中学校に夜間学級(夜間中学)を開設しています。夜間学級は、さまざまな理由で義務教育を修了できなかった方などに、学び直しの機会を提供するために設置されたものです。4月11日、開設式および入学式が開催され、10代〜70代の新入生とその家族など約50人が参加しました。新入生代表の方は、「一時間一時間を大切に、学びを深めていきたい」とこれからの抱負を語りました。

市政トピックス

仙台市立南小泉中学校夜間学級(夜間中学)を開設しました

令和4年3月16日に発生した福島県沖を震源とする地震により、馬の足首部分に亀裂が入り傾倒するなどの被害を受け、7月から東京の工場修復作業を行っていた伊達政宗公騎馬像。破損箇所の修復に加え、内部をより堅固な構造に改良するなどの作業を行い、ついに3月21日、青葉山公園本丸広場に到着しました。3月31日には、およそ8カ月ぶりの帰還を祝い、帰還記念式典が開催されました。式典当日は、満開の桜が咲き誇る晴天の下、伊達武将隊が騎馬像前で演武を披露し、会場を盛り上

3.11震災文庫を震読む

「種をまく人」



ポール・フライシュマン/著 片岡しのぶ/訳 片岡あすなろ/書房 刊

この本は、東日本大震災の直後、職場に支援に訪れた女性が「気分転換になりましたら幸いです」と付箋を付けて、職員がくつろぐ場所に置いていったものです。幾分落ち着きを取り戻した頃に自宅で一息に読みました。感動しました。アメリカ北東部の工業都市にさまざまな国から移住してきた決して豊かではない人々が、ごみ捨て場のごみを片付け、種をまいて野菜を育てながら、それぞれが救われていく話です。

私の家も津波で流され、ウクライナや台湾からの留学生など全国から来た人々が、がれきを拾い集めてくれました。現在、自宅の隣の畑では都会に住む人たちが訪れ、野菜を栽培しながら交流を続けています。

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりすぐりの本をご紹介します。

震災後に励まされた本

遠藤環境農園

遠藤 源一郎

「凍をたらしした神」



吉野せい/著 中央論新社 刊

この本を震災後に読んで驚きました。1899年に福島県いわき市で生まれた一人の女性が70歳を過ぎてから筆を執り、農作業や身近な生き物たちの姿を生き生きと描いています。開墾地での厳しい農作業の中で励ましてくれる自然や生き物たちを、心を込めて描写しています。あんな春の朝に目に浮びます。素晴らしい表現です。何度読んでも心打たれる、味わい深い本です。

私は津波が運んできたがれきを拾い続けました。震災の翌年、畑では草が勢いよく生えてきて、庭はいつしかカモミールで満開になりました。次第に生き物が戻ってきました。季節が巡ってきたのです。